

## 高野山大学生の読経

私は高野山大学で「布教」の授業を担当しています。高野山大学を卒業した学生が寺へ帰ってもお説教ができないようでは困ります。『空海名言辞典』から一句を選び、教壇で布教を語らせます。以下は、「なぜお経を読むのか」というテーマで二十四名の三分間スピーチをまとめてみました。

×

×

×

お釈迦さまは三十五歳の成道から八十歳涅槃まで、インド各地で伝道の旅を続けられました。その内容が八万四千の法門です。お経は人々の様々な心模様を説いたカウンセラーのようなもの。経はタテ糸、緯はヨコ糸。真理の経糸に生き方の緯糸を通せば人生模様の反物ができます。

お釈迦さまは「自灯明」を説かれました。仏法を学び、自ら仏に接近していくことが大切です。仏法を生活に活かせば楽しみが得られ、悟りを開くことができます。私は毎日「般若心経」を読んでいます。

経典は祈禱や廻向のために読むことが多く、この読経の功德によって施主に仏の種がすりこまれます。しかも、読経は他の幸福のために祈ることが最も優れています。

大勢で唱えるときは、遅速も高低もなく、揃うことが大切です。毅然として読経をすれば、寒中の水行も冷たさがなくなり、仏の守護を強く感じます。なお、仏を讃嘆するために、経文に曲や節がつけられています。お経を音曲で唱えればさらに有難くなります。

お経は人間が考えた文章ではありません。仏さまの説法であり、真言、陀羅尼です。ゆえに、経文を間違わないように、正しく、丁寧に読むことが大切です。

周囲の声に合わせながら「耳で読む」ことが大切です。師からは「一字一字を蓮台に載せるようにして読む」とも教わりました。なお、経本を掌に戴せれば背筋が自然に伸びて、身も心も真っすぐに立ちます。

読経は生活のなかに仏の環境をつくり、心を落ち着かせます。お経が聞こえる家庭の子どもは心が優しく育ちます。ここから、犯罪のない思いやり社会が形成されていきます。